

<カタツムリの恋>

桑原紀子

文庫の子ども達にカタツムリの話をするようになりました。

その日に備えて、道を歩いている、カタツムリの殻が落ちていないか、つい探してしまう日々です。

殻は幾つも見つかりました。右巻きや左巻き、模様の違いや大小もあって、並べてみるとなかなか面白いのです。

でも殻だけではつまらないので、生きたカタツムリを探すことにしました。

中国地方の山間の小さな町で子ども時代を過ごした私は、身近に沢山の生き物がいました。カタツムリもそのひとつで、町のどこに行けばカタツムリがいるか知っていました。

梅雨時の今頃、雨が上がると急いで秘密の場所に向かいます。

そこは、低い土塀が道に沿って張り巡らされている歯医者さんのお屋敷で、少し崩れた塀の中から紫陽花の茂みがこぼれていて、濡れた葉に大きなカタツムリが何匹もいるのです。私はときどきする気持ちで、持っていった箱のなかにカタツムリを入れたものでした。そこに行けば、必ずカタツムリはいるのでした。

ここ数年なんだかカタツムリを見なくなったなあと思います。知人に聞いても、同じ答えが返ってきます。

カタツムリたちはどこへ姿を隠したのでしょうか。

私は本気でカタツムリ探しを始めました。そして思わぬ発見をしたのです。

発見その一は、我が家の庭の殆ど全域にカタツムリの赤ちゃんがいたことです。

たまたま雨上がりに探したので、1センチにもみたない小さなカタツムリ達がいっせいに土や朽ち葉の上に姿を現したのです。丸いのと、細長いキセル型のもいて、これはキセル貝と呼ばれるカタツムリの仲間です。

我が家は林続きなのと、木を茂らせているので、落

ち葉も多く、カタツムリにとってきっと棲みやすい環境なのでしょう。でも大人のカタツムリはなかなか見つかりません。やっとすみっこに隠れていた大きいのを



見つけ、明日子ども達に見せようと飼育ケースに入れました。

ここからが発見その二です。夕方ケースをのぞいた私はびっくりしました。カタツムリの首のあたりから、白い細い槍のようなものが出ているのです。

測ってみると7ミリ位もあります。カタツムリについて調べていたので、それが、恋矢(れんし)と呼ばれる物だとすぐわかりました。

カタツムリは雌雄同体で、交尾する時、お互いに相手の首にある生殖孔に精子を入れて受精し、それぞれ産卵します。

この時、鋭くとがった恋矢で互いの生殖孔をついで刺激し、精子の交換をし易くするのです。

でもケースのカタツムリは相手もいないのになぜ？

私は夕方の庭中を探しましたが、赤ちゃんたちはいっぱいいても、恋矢の相手は見つかりません。2時間ほどたって恋矢はむなくポロリと落ちました。カルシウムでできているので、しっかりと硬いのです。

お詫びにレタスをあげると、恋が実らなかったカタツムリはすぐ食欲を発揮しはじめました。

恋矢はすぐ又作れるのか、このカタツムリの恋のチャンスはあるのか、私にはまだ分かりません。

カタツムリは1千万年以上も昔、海から陸に上がってきた巻貝です。

子ども達への話が終わったら、ひっそりと生き続けているこの生き物の大先輩を早速庭の隅っこに戻してあげようと思います。